

# 度会町における

## 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会  
平成27年 9月

本年4月21日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮し、今後の当町の教育の一層の充実を図ってまいります。

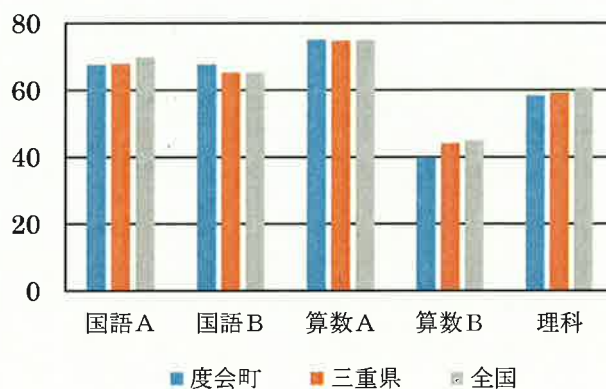
### 1、全体概要

#### ■各教科平均正答率の状況

##### <小学校>

| 平均正答率 | 国語A  | 国語B  | 算数A  | 算数B  | 理科   |
|-------|------|------|------|------|------|
| 度会町   | 67.7 | 67.8 | 75.2 | 40.0 | 58.4 |
| 三重県   | 68.0 | 65.3 | 74.8 | 44.1 | 59.2 |
| 全国    | 70.0 | 65.4 | 75.2 | 45.0 | 60.8 |

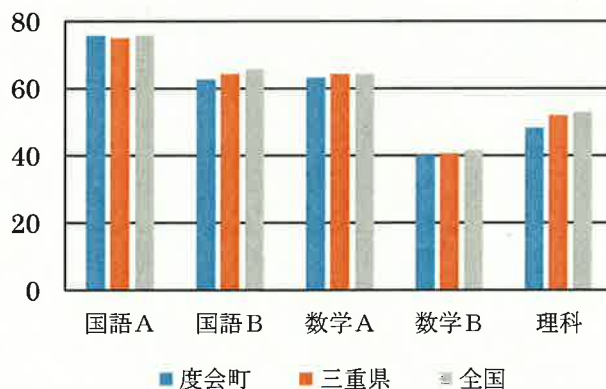
A…主として「知識」に関する問題 (%)  
B…主として「活用」に関する問題



##### <中学校>

| 平均正答率 | 国語A  | 国語B  | 数学A  | 数学B  | 理科   |
|-------|------|------|------|------|------|
| 度会町   | 75.7 | 62.6 | 63.2 | 40.2 | 48.2 |
| 三重県   | 75.0 | 64.3 | 64.3 | 40.6 | 51.9 |
| 全国    | 75.8 | 65.8 | 64.4 | 41.6 | 53.0 |

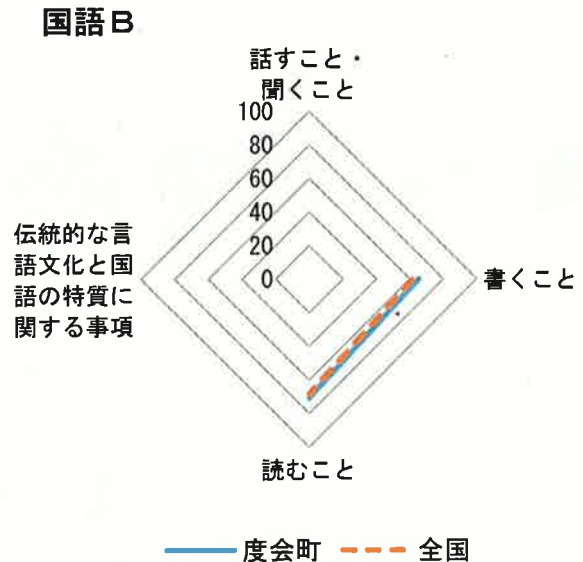
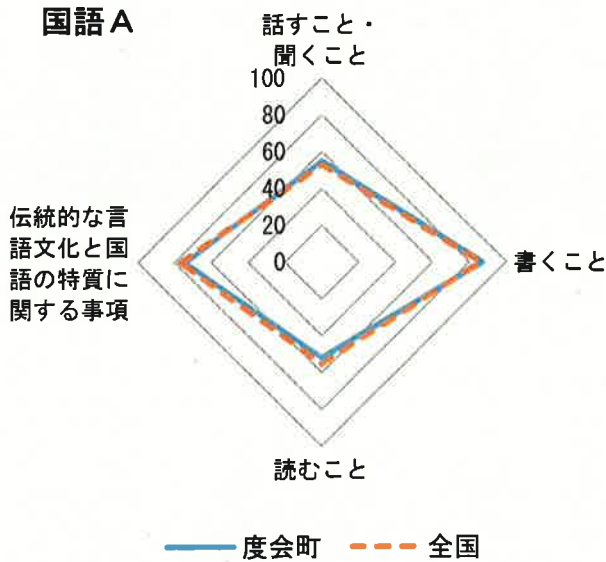
A…主として「知識」に関する問題 (%)  
B…主として「活用」に関する問題



## 2、教科別概要

### 【1】小学校国語

#### ■領域別平均正答率の状況



※国語 B に「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域にかかる問題は出題されていません。

#### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇漢字の読みは、概ね出来ています。

- ・問題 A 1-1 友人を家に招く。(町 100% 県 97.5% 全国 97.5%)

◆漢字の書きは、漢字の読みに比べて習得にむらが見られます。

- ・問題 A 1-3 びょういんに行く。(町 66.7% 県 71.2% 全国 74.9%)

◆文の中の主語と述語の関係に注意し、主語を選択することに課題がみられます。

- ・問題 A 2-1 ぼくの妹の誕生日は、五月二日だ。(町 38.5% 県 51.5% 全国 53.1%)

◆新聞コラムを読んで、表現の工夫を捉えることに課題がみられます。

- ・問題 A 5-2 筆者が自分の思いや考えを根拠付けるために引用した言葉のはじめ五文字をコラムの中から書き抜く。(町 16.7% 県 15.0% 全国 19.8%)

◇目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることは概ね出来ています。

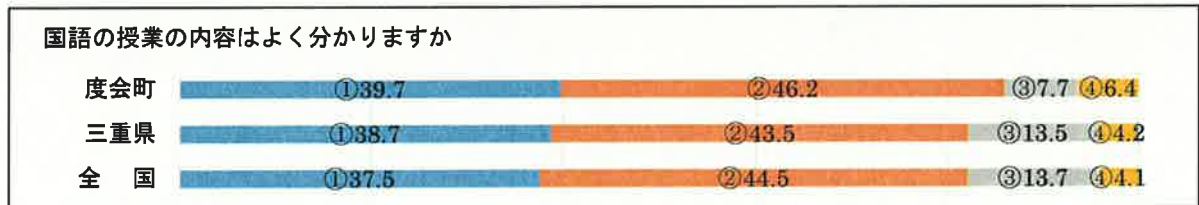
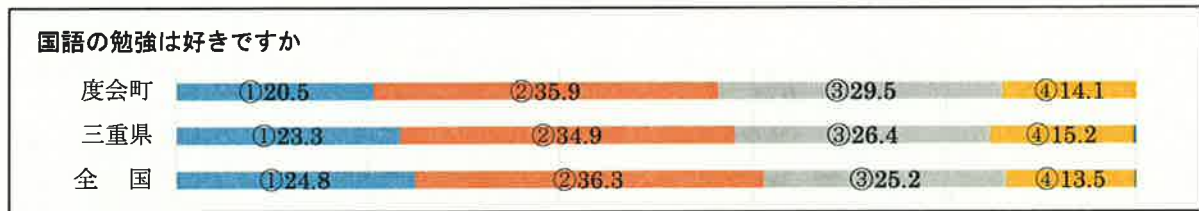
- ・問題 B 2-2 文章の中の言葉を使い、文章の要旨を六十字以上、百字以内で書く。(町 84.6% 県 78.2% 全国 78.4%)

◇物語全体の内容や構成、展開を把握し、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することは、概ね出来ています。

- ・問題 B 3-2 とんち話の最後のセリフを、声に出して読むときの工夫と、なぜそのように読むのか、自分が想像する話し手の気持ちを取り上げながら、四十字以上、八十字以内で書く。(町 73.1% 県 65.6% 全国 66.6%)

## ■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

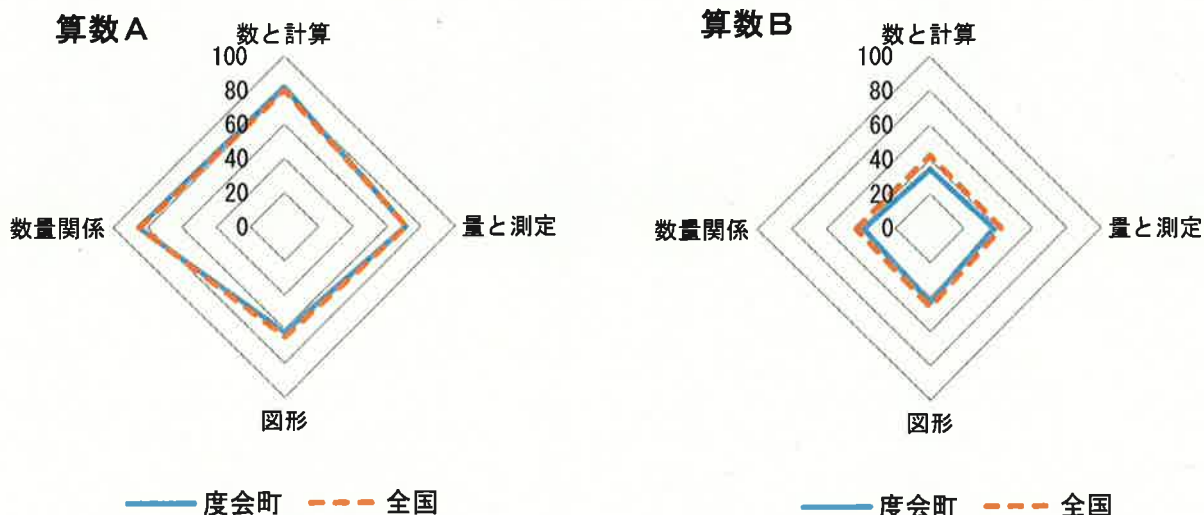


## ■全体的傾向と課題

- ・基礎基本の力は概ねついていますが、漢字の定着にむらが見られます。また、文の構成で重要とされる主語・述語の照応関係の理解において、課題が見られます。
- ・新聞の記事などで見られる表現の工夫（書き出し、引用、事実、感想・意見等）に着目しながら、筆者の意図を読みとったり、自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られます。
- ・字数や語句の使用など条件が伴う記述問題に対して、問題の要旨を捉え、的確に表現することが出来ています。また、無回答率の低さから、最後まで諦めずに書こうという姿勢が見られます。
- ・「国語の授業の内容はよく分かるか」に対し、肯定的に感じている児童が多いものの、「国語の勉強が好きか」に対し、約4割の児童が否定的な回答をしています。
- ・目的に応じて資料を読んだり、自分の考えを理由が分かるように書くなど、目的意識や相手意識をもって取り組むことに課題があり、引き続き丁寧な指導が必要な状況です。

## 【2】小学校算数

### ■領域別平均正答率の状況



### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇基本的な整数、小数、分数の四則計算は、概ね出来ています。また、加法と減法の相互関係を理解し、計算結果の確かめを行うことも概ね出来ています。

・問題A①(3)  $6.3 + 0.22 = 6.52$  の確かめの計算式 (町 85.9% 県 82.9% 全国 82.0%)

・問題A②(4) 除数が整数である分数の除法  $\frac{5}{6} \div 7$  (町 91.0% 県 83.4% 全国 84.2%)

◆図形の性質を理解することに課題がみられます。また、図形の学習を日常生活での事象と関連させ発展的に考えることに課題がみられます。

・問題A⑤(2) 円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形(二等辺三角形)の底角の大きさを求める。(町 59.0% 県 63.0% 全国 64.5%)

・問題B①(3) 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形(平行四辺形)を見いだし、図形の性質を言葉と記号を用いて記述する。

(町 29.5% 県 26.0% 全国 27.7%)

◆基準量、比較量、割合の関係を捉え、基準量を求めることに課題がみられます。

・問題B②(2) 20%増量して売られている洗剤の量が480mlの場合、増量前の量を求める式と答えを書く。(町 5.1% 県 11.6% 全国 13.1%)

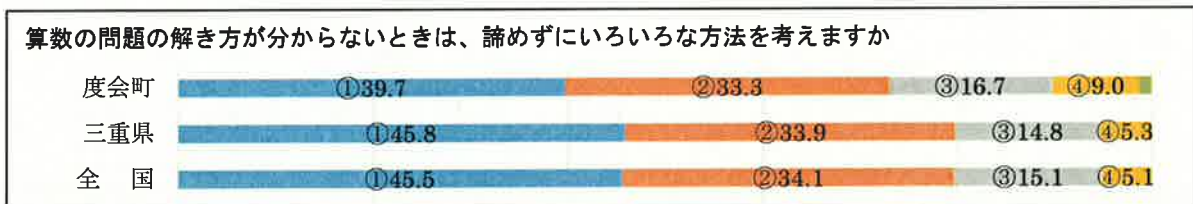
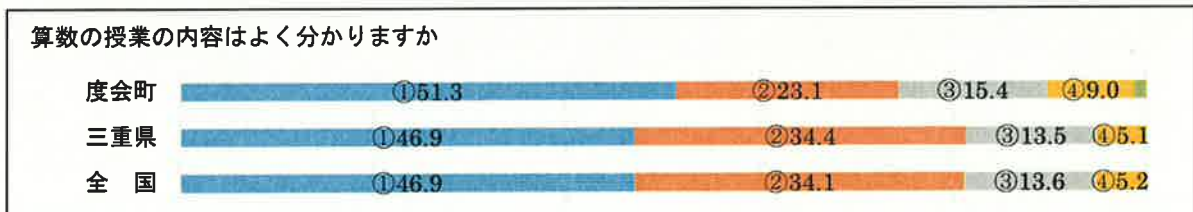
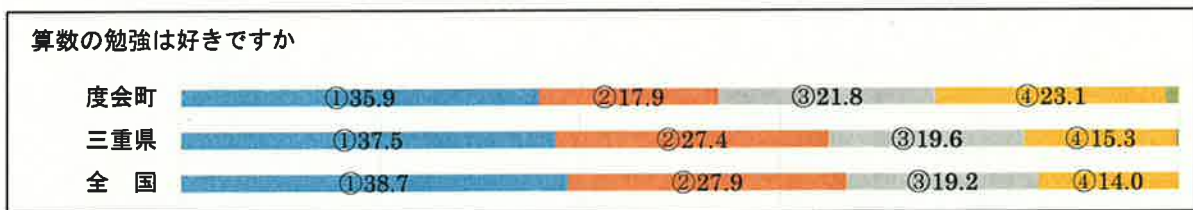
◆四捨五入して概数で計算することに課題がみられます。

・問題B④(1) 1891・1982・2903・2473の和を四捨五入して千の位までの数で計算する。

( $2000 + 2000 + 3000 + 2000 = 9000$ ) (町 37.2% 県 51.3% 全国 52.6%)

## ■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



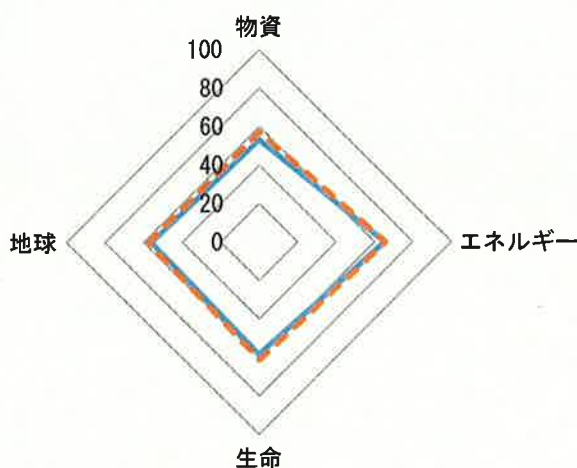
## ■全体的傾向と課題

- ・ 反復学習から、基礎的・基本的な計算技能は概ね身に付いています。計算する上で、結果の見積りや確かめの習慣が一層身に付くよう丁寧に指導を行っていきます。
- ・ 算数での学習内容が、日常生活での事象の解決に活用しきれていない面がみられます。図形の性質や、概数や概算を活用し合理的に判断すること、また「〇%増量」「〇%割引」など日常生活でよく見かける基準量、比較量、割合などの関係性の理解に、課題がみられます。
- ・ 示された条件に沿って求め方の記述をすることや、「なぜ、そう考えるか」といった判断理由を根拠となる事実と関連付けて記述する問題において、無回答率が高い傾向にあります。
- ・ 算数の学習における関心・意欲が、全国や三重県平均と比べ、やや低い状況です。児童にとって身近で、解決の必要性を感じる場面に基に問題設定を行い、算数のよさ、解く楽しさを実感できるような授業づくりを図っていきます。

### 【3】小学校理科

#### ■領域別平均正答率の状況

##### 理科



#### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇糸につるしたおもりが1往復する時間は、おもりの重さではなく、糸の長さによって変わることをご理解しています。

- ・問題①(2) 振り子の運動の規則性を理解し、振り子時計が遅れないように調整する適切な方法を選択する。(町 64.1% 県 59.8% 全国 61.2%)

◆実験や観察で使用する器具の名称や操作方法の知識の定着に課題がみられます。

- ・問題②(3) 示された器具(顕微鏡)の名称を書く。(町 65.4% 県 61.8% 全国 61.6%)
- ・問題③(4) 示された器具(メスシリンダー)の名称を書く。  
(町 60.3% 県 60.0% 全国 70.7%)

- ・問題②(4) インゲンマメの子葉の養分を観察した様子から、顕微鏡の適切な操作方法を選択する。(町 29.5% 県 37.3% 全国 37.9%)

◆植物の適した栽培場所を判断する場合に、植物の成長の様子や日光の当たり方を適用して考察することに課題がみられます。

- ・問題②(5) インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選択し、その理由を書く。(町 39.7% 県 40.4% 全国 44.2%)

◆実験予想で得られる結果を見通して、実験を構想することに課題がみられます。

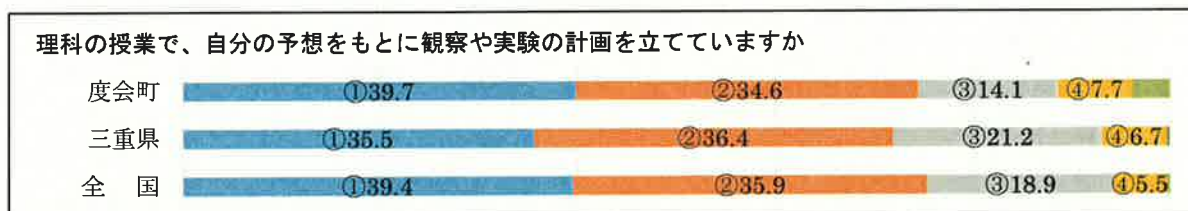
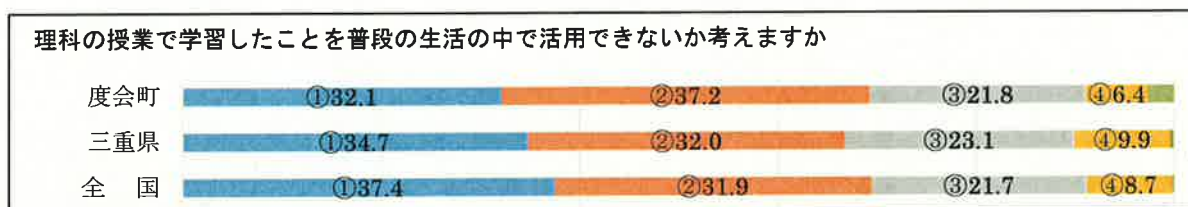
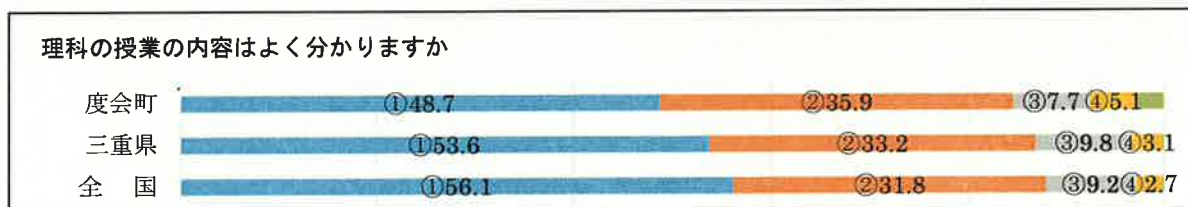
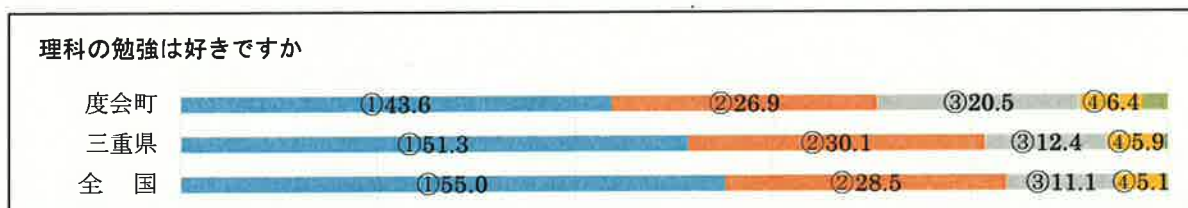
- ・問題③(2) 水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ。  
(町 43.6% 県 51.7% 全国 54.0%)

◇月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、東から西へ位置が変わることを概ね理解しています。

- ・問題④(2) 午後8時に観察した月の様子を基に、午後4時に観察した月の形と位置を選択する。(町 66.7% 県 54.5% 全国 56.1%)

## ■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

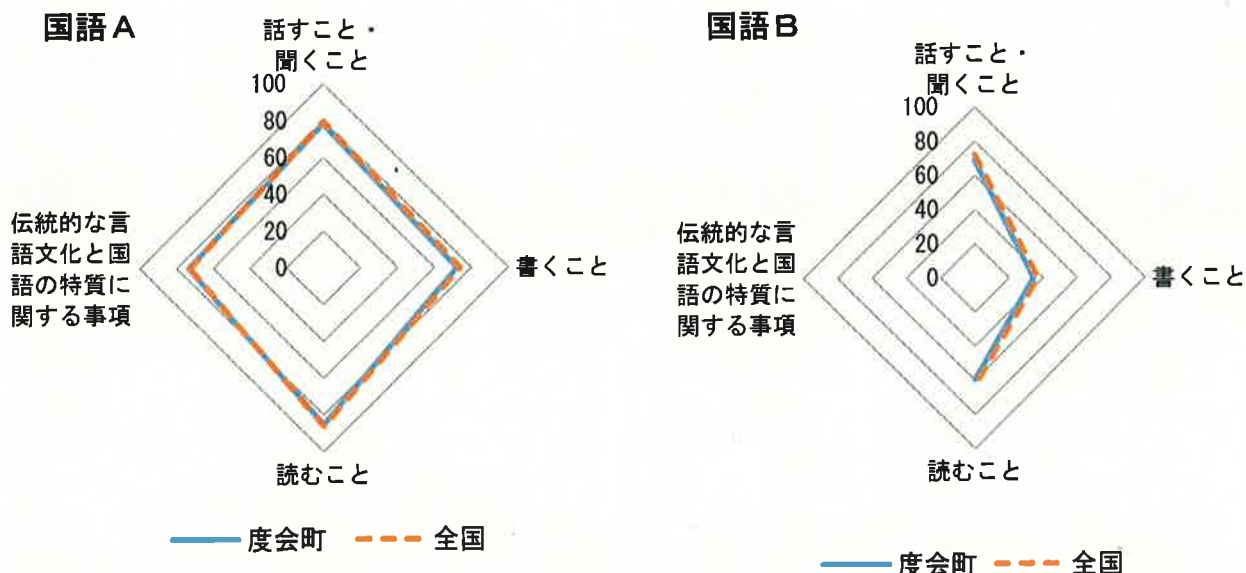


## ■全体的傾向と課題

- ・ 実験・観察器具の名称や適切な操作方法に関する知識の定着に課題がみられます。具体的な操作方法を示し、全ての児童が実際に操作を行うことで確実に習得できるよう指導します。
- ・ 児童の身のまわりで見られる自然や日常生活の事象・現象に関連させた問題が多く出題されています。例えば、植物の成長や日光の当たり具合から栽培場所を選択する問題、砂糖をお湯で溶かす際の温度や量による溶け方の違いを考える問題、月や星の動きを観察する問題、地面にまく打ち水の効果について考える問題などです。授業で学習した内容が、普段の生活の中で活用できることが強く求められているメッセージですが、活用しきれていない面があります。
- ・ 質問紙調査の「普段の生活の中で活用できないか考える」に対し、約7割の児童が肯定的に回答しています。その意識を大切に、身近な自然や事象・現象に触れる機会をより多く持ち、「理科って、こんなに面白い」「どうして、こうなるか調べてみよう」という興味・関心につながるよう指導の充実を図ります。

## 【4】中学校国語

### ■領域別平均正答率の状況



### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇漢字の読み書きや、語句の意味を理解し適切に使うことは概ね出来ています。

- ・問題 A<sup>9</sup>一 2 地図のシュクシャクを調べる。(町 86.4% 県 70.0% 全国 72.1%)
- ・問題 A<sup>9</sup>二 1 詳細に述べる。(町 81.8% 県 74.4% 全国 78.2%)

◆単語の類別を理解することに課題がみられます。

- ・問題 A<sup>9</sup>四 「青い」と「青さ」の品詞を選択肢 (①名詞②動詞③形容詞④形容動詞)の中から選択する。(青い：町 62.5% 県 62.2% 全国 62.3%)  
(青さ：町 29.5% 県 33.5% 全国 33.7%)

◇登場人物の心情や行動に注意して読んだり、登場人物の言動の意味を考えたりして内容を理解することは出来ています。

- ・問題 A<sup>3</sup>三 宮沢賢治「風の又三郎」の一文から登場人物の様子を読み取り、適切なものを選択する。(町 92.0% 県 89.6% 全国 89.8%)

◆複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを持つことに課題がみられます。

- ・問題 B<sup>2</sup>三 資料を基に 2020 年の日本がどのような社会になっているか予想し、その社会にどのように関わっていきたいか考えを八十字以上、百二十字以内で書く。(町 23.9% 県 20.9% 全国 23.0%)

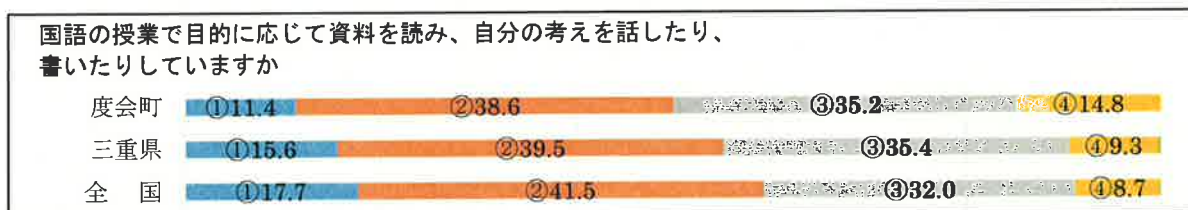
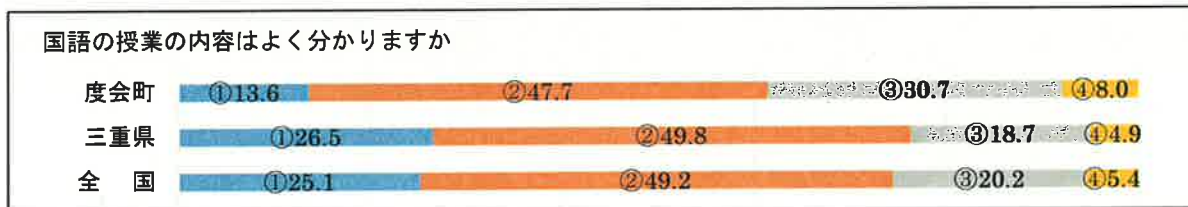
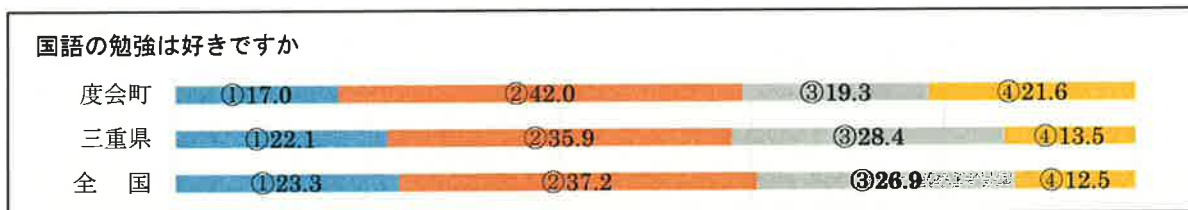
◆文章の構成や展開等を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がみられます。

- ・問題 B<sup>3</sup>三 小泉八雲「貉」翻訳文の最後の一文「…そして、それと同時に、屋台の火も消えた。」がある方がよいか、ない方がよいか、自分の考えと理由を話の展開を取り上げて、五十字以上、八十字以内で書く。  
(町 21.6% 県 28.4% 全国 31.1%)



## ■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

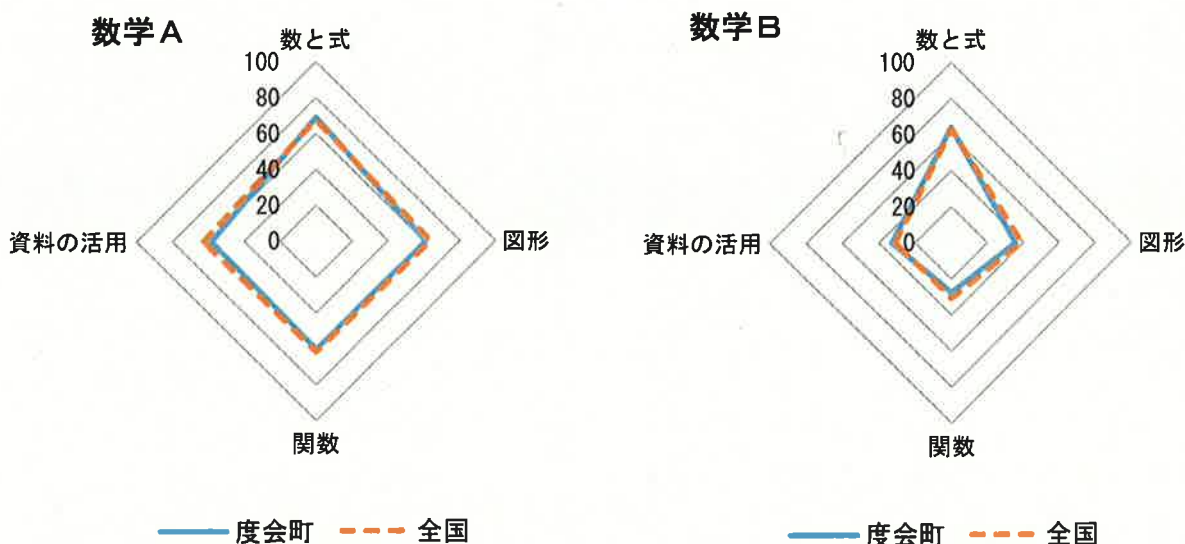


## ■全体的傾向と課題

- ・基礎基本の力は概ね身に付いていますが、なじみの薄い語句や使用頻度の低い漢字、また単語のもつ文法的な役割や品詞の名称を理解することに課題がみられます。
- ・目的に応じて文章や資料から必要な情報を取り出し、それを基に根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がみられます。ただし、記述問題に対し、最後まで解答を書こうと努力した割合は84.1%（県77.1% 全国76.4%）と高く、無回答率の低下に表れています。
- ・国語の学習に対する関心・意欲が全国や三重県平均と比べ、やや低い状況です。「国語の勉強が好き」「授業がよくわかる」と肯定的に回答する生徒が過半数を占める一方、4割近くの生徒が否定的に感じていることを受けとめ、授業の工夫・改善に引き続き努めます。

## 【5】中学校数学

### ■領域別平均正答率の状況



### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇一次式の減法や一元一次方程式を解くことは概ね出来ています。

- ・問題A $\bar{2}$ (1)  $5X-X$  を計算する。(町 93.2% 県 86.2% 全国 85.3%)
- ・問題A $\bar{3}$ (2)  $1.2X-6=0.5X+1$  を解く。(町 83.0% 県 74.1% 全国 73.8%)

◆具体的な場面で、連立二元一次方程式をつくることや、解くことに課題がみられます。

- ・問題A $\bar{3}$ (3) 今年度入学者は男女合わせて223人、昨年度より3人増えました。昨年度より男子は5%増え、女子は3%減った場合の昨年度の男女別入学者数を求める式として正しいものを選択する。(町 45.5% 県 47.3% 全国 44.9%)

◆与えられた資料から中央値を求めることや、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられます。

- ・問題A $\bar{14}$ (1) 反復横とびの記録の中央値を求める。(町 28.4% 県 42.4% 全国 46.0%)
- ・問題B $\bar{5}$ (2) 2回実施した落し物調査の結果表やグラフから、分布の中に極端に離れた値があり、平均値だけでは特徴を的確に把握できない場合に、他に着目し判断理由を説明する。(町 22.7% 県 21.3% 全国 23.3%)

◇面の回転によって回転体が構成されることについては理解しています。

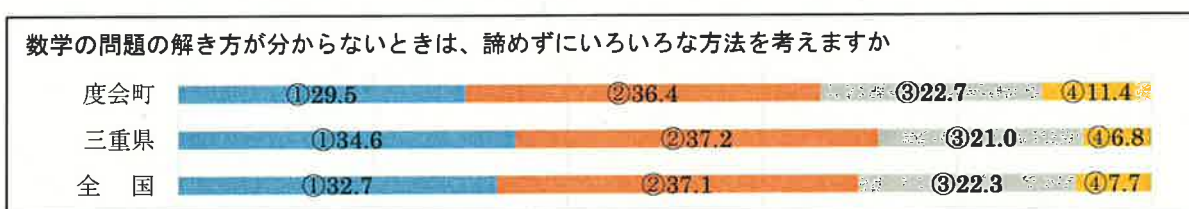
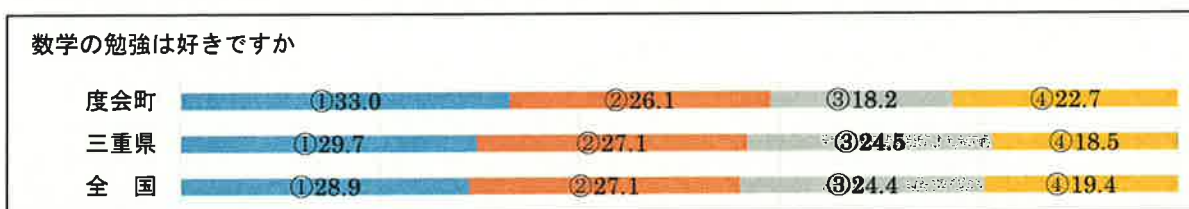
- ・問題A5(2) 直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ。  
(町 89.8% 県 83.5% 全国 83.4%)

◆平面図形と空間図形を関連付けて考察し、特徴を的確に捉えることに課題がみられます。

- ・問題B $\bar{3}$ (1) ポップアップカードを作り、 $90^\circ$  に開いたときの四角形が正方形になる場合の一辺の長さを求める。(町 37.5% 県 41.0% 全国 42.6%)

## ■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

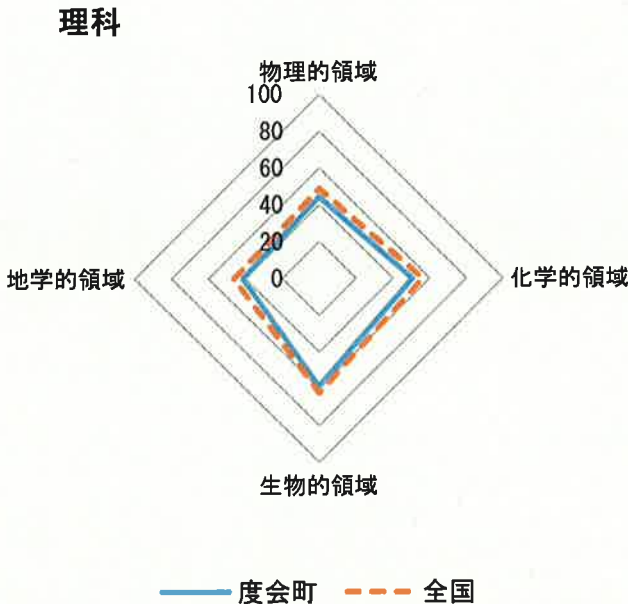


## ■全体的傾向と課題

- ・基礎的な計算技能は概ね身に付いていますが、必要な数量を見だし立式することや、連立二元一次方程式の計算など、知識技能の習得にむらが見られます。
- ・与えられた資料から傾向を捉えることや、グラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えることは出来ても、数学的な表現を用いて説明することに課題がみられます。平均値、中央値、最頻値といった代表値の理解にも課題があると言えます。
- ・それぞれの図形がもつ性質は概ね理解していますが、それらに関連付けて考察することや、図形の性質を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題がみられ、無回答率が高い傾向にあります。
- ・数学に対する学習意欲は全国平均と比べても高いとは言えませんが、「授業がよくわかる」と肯定的に回答する生徒の割合は高めです。また、ノートに解き方や考え方がわかるように工夫して書いたり、公式やきまりを習うときに根拠も一緒に理解しようとする意識は比較的高い状況です。

## 【6】中学校理科

### ■領域別平均正答率の状況



### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇実験の結果を表したグラフや、実験の結果を言葉で記録した表を分析して解釈することは概ね出来ています。

- ・問題①(4) 炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ。(町 76.1% 県 71.6% 全国 73.6%)

◆実験を計画することや、見いだした問題を基に課題を設定することに課題がみられます。

- ・問題①(5) ベーキングパウダーの原材料で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ。  
(町 42.0% 県 51.1% 全国 51.7%)

- ・問題⑦(3) キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する。(町 47.7% 県 56.1% 全国 57.3%)

◇理科で学習したことが関係する科学技術について、電磁誘導に関する科学的な概念を使用して説明することは、概ね出来ています。

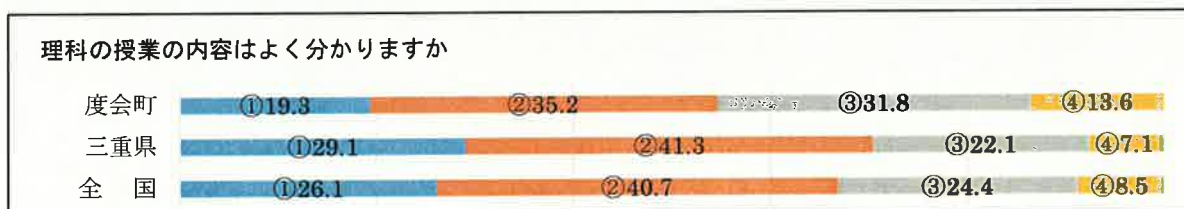
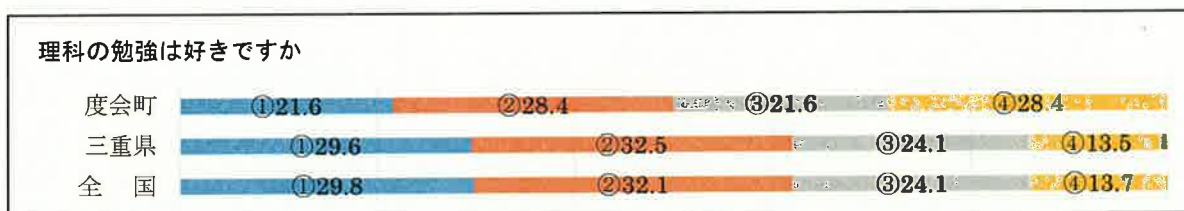
- ・問題⑤(2) 電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を「磁界」という言葉を使って説明する。  
(町 65.9% 県 57.1% 全国 56.8%)

◆分析して解釈し規則性を見いだすことや、他者の考えた実験の方法を検討して改善することに課題がみられます。

- ・問題④(1) 実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ。(町 34.1% 県 41.6% 全国 43.7%)
- ・問題④(2) ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ。(町 34.1% 県 50.5% 全国 50.3%)

## ■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



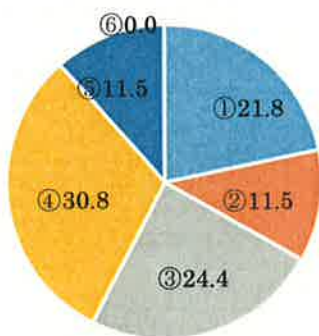
## ■全体的傾向と課題

- ・基本的な知識や技能は概ね身に付いていますが、それらを日常生活や社会の特定の場面において活用しきれていない面があります。誰もが経験できる身近な現象を取り上げることで問題意識をもたせ、理科で学習した知識を活用する学習場面を引き続き設定していきます。
- ・予想や仮説を設定し、検証する実験を計画することに課題がみられます。「～だろうか」「～のか」と自ら課題を抱くことで、課題解決に向け主体的に取り組もうという探究心も高まりますが、質問紙調査「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」に対し、約6割の生徒が否定的な回答をしています。
- ・「理科の勉強は好き」「授業の内容がよくわかる」と回答する生徒の割合が、全国や三重県平均と比べて低く、主体的な学習意欲につながっていないことが伺えます。理科への苦手意識を好奇心、探究心に転じていくことができるよう、授業の工夫・改善に向け取り組みます。

### 3、児童生徒質問紙調査の概要

#### 【1】生活習慣

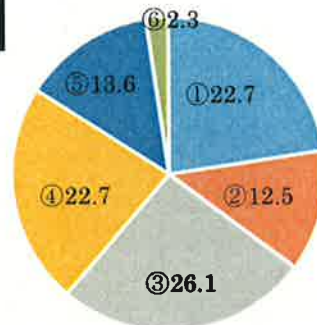
##### ■小学校



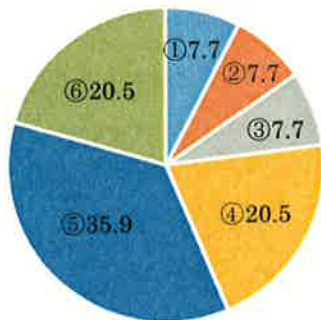
平日のテレビ、ビデオ、DVD視聴時間

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全く見たり聞いたりしない

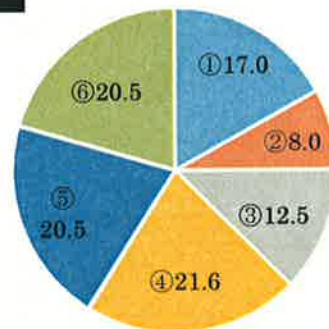
##### ■中学校



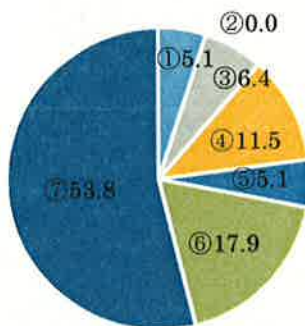
平日のテレビゲームを行う時間



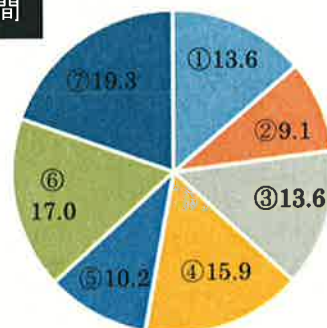
- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全くしない



平日の携帯電話での通話・メール・ネット時間



- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 30分以上 1時間未満
- ⑥ 30分未満
- ⑦ 持っていない



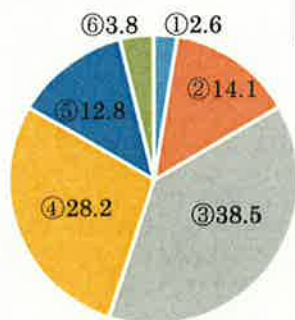
度会町の小・中学生の状況です。小学生では、3時間以上テレビやビデオを視聴している割合 33.3% (全国平均 36.1%)、3時間以上ゲームをしている割合 15.4% (全国平均 17.0%)、3時間以上携帯電話を使用している割合 5.1% (全国平均 5.7%) であり、全国平均と同程度もしくは低い傾向と言えます。

中学生では、3時間以上テレビやビデオを視聴している割合 35.2% (全国平均 30.5%)、3時間以上ゲームをしている割合 25.0% (全国平均 20.5%)、3時間以上携帯電話を使用している割合 22.7% (全国平均 18.2%) であり、全国平均よりやや高い傾向にあります。

また、小学6年生では半数近くの児童が携帯電話を所持していませんが、中学3年生では8割超の生徒が所持していることが分かります。

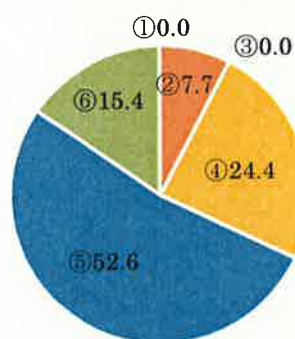
## 【2】 家庭学習

### ■小学校



平日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)

- ① 3時間以上
- ② 2時間以上 3時間未満
- ③ 1時間以上 2時間未満
- ④ 30分以上 1時間未満
- ⑤ 30分未満
- ⑥ 全くしない



土日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)

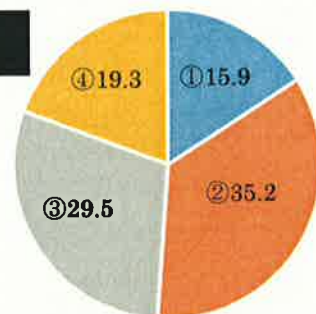
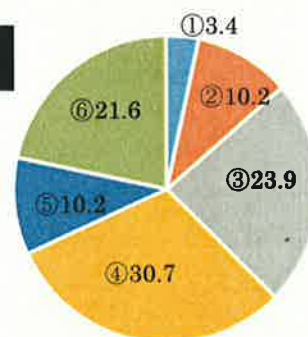
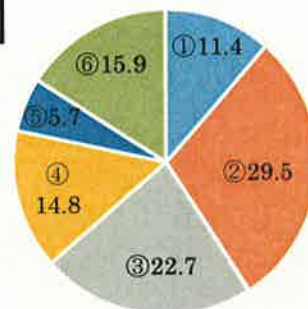
- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全くしない



自分で計画を立てて勉強しているか

- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

### ■中学校



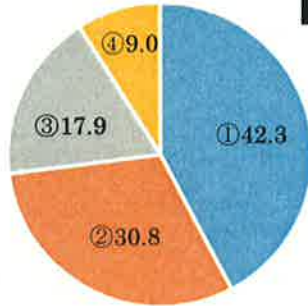
平日1時間以上勉強している小学生の割合は55.2%（全国平均62.7%）、土・日曜日では32.1%（全国平均56.7%）で、全国平均と比べ低く、特に休日の家庭学習に大きな差異がみられます。

中学生では、平日1時間以上勉強している生徒の割合は63.6%（全国平均69.0%）、土・日曜日では68.2%（全国平均68.7%）で、全国平均とほぼ同程度の割合です。しかし、「全くしない」生徒が平日では15.9%（全国平均5.3%）、土・日曜日では21.6%（全国平均10.6%）と著しく高い傾向にあります。

また、小・中学生ともに、学校の宿題はきちんと行うものの、予習や復習を行ったり、自分で計画を立てて勉強している割合が低く、家庭学習の習慣が身に付いていないことや、主体的に学習に取り組む姿勢が弱いことが分かります。テレビやゲーム、携帯電話の使用時間が長い分、限られた時間の中で学習時間が短くなっている状況が伺えます。

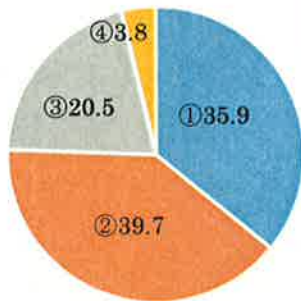
### 【3】 学校生活・規範意識

#### ■ 小学校



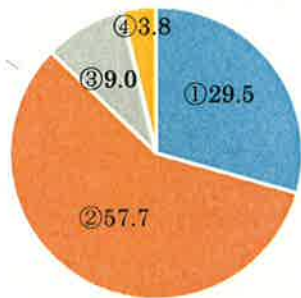
学校に行くのは楽しいと思いますか

- ① ① ④ ③
- ② ②
- ③ ③
- ④ ④



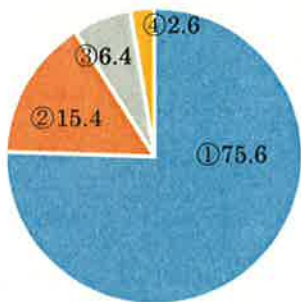
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

- ① ① ④ ③
- ② ②
- ③ ③
- ④ ④



学校のきまり(規則)を守っていますか

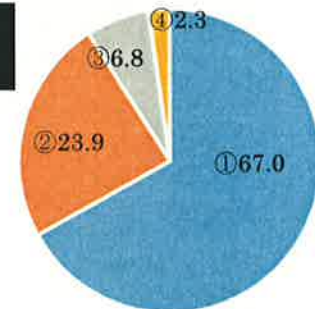
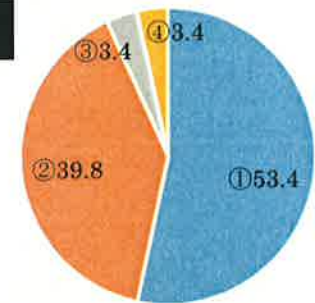
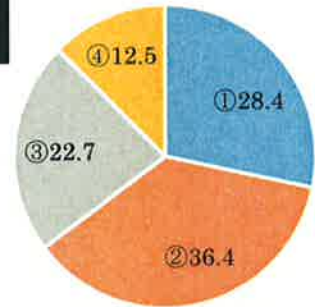
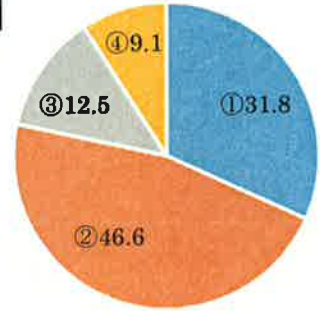
- ① ① ④ ③
- ② ②
- ③ ③
- ④ ④



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- ① ① ④ ③
- ② ②
- ③ ③
- ④ ④

#### ■ 中学校

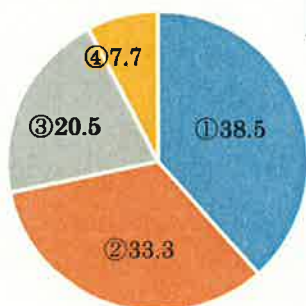


学校のきまりや、いじめに対する意識など、児童生徒の規範意識は比較的高い傾向にありますが、一方で「学校へ行くのは楽しい」「みんなで協力してうれしかった」など学校生活での満足度が昨年度より低下しており、2~3割の児童生徒が否定的な回答をしています。



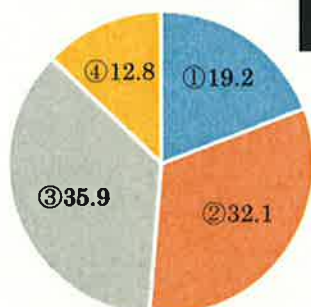
## 【4】地域、社会に対する興味・関心

### ■小学校



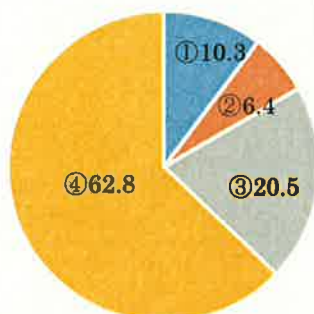
地域の行事に参加していますか

- ①当てはまる
- ②どちらかといえば、当てはまる
- ③どちらかといえば、当てはまらない
- ④当てはまらない



地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

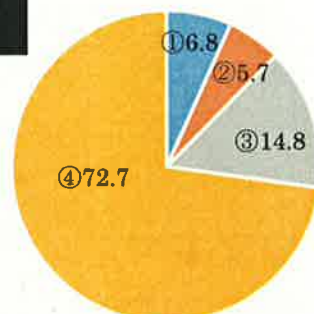
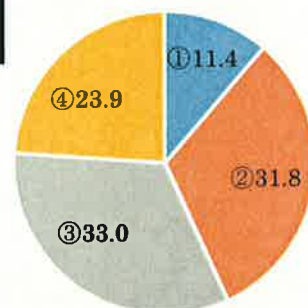
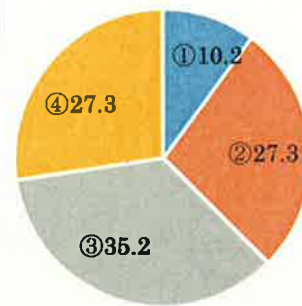
- ①当てはまる
- ②どちらかといえば、当てはまる
- ③どちらかといえば、当てはまらない
- ④当てはまらない



新聞を読んでいますか

- ①ほぼ毎日読んでいる
- ②週に1~3回程度読んでいる
- ③月に1~3回読んでいる
- ④ほとんど、または全く読まない

### ■中学校



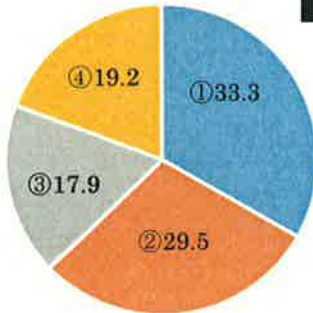
地域の行事に参加している児童は 71.8%（全国平均 66.9%）、生徒は 37.5%（全国平均 44.8%）と、中学生になるほど地域との関わりが薄くなっていることが伺えます。それは、地域や社会で起こる問題や出来事への関心の低さに対しても、同様に言えます。

テレビのニュース番組やインターネット（携帯電話を使う場合を含む）のニュースは、8割近くの児童生徒が見ていますが、新聞を読んでいる割合は小中学生ともに低く、全く読まない割合が極めて高いです。

小・中学校では、校外学習や体験活動の後に、個人新聞を作成する活動を計画的に取り入れています。読み手を意識した効果的な紙面づくりの技能を身に付けるよう指導していますが、近年多くの媒体から情報を得ることができ、それぞれの家庭において新聞の捉え方も変わりつつあるのか、新聞離れが進んでいるように感じます。

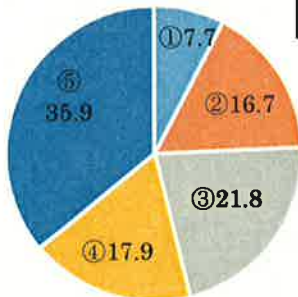
## 【5】読書活動

### ■小学校



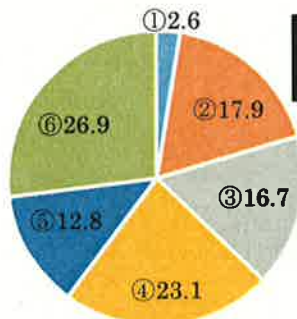
読書は好きですか

- ①当てはまる
- ②どちらかといえば、当てはまる
- ③どちらかといえば、当てはまらない
- ④当てはまらない



昼休みや放課後、休日に学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

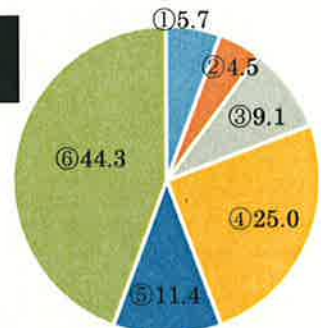
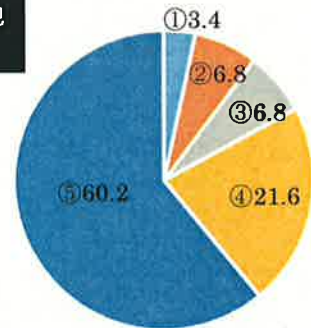
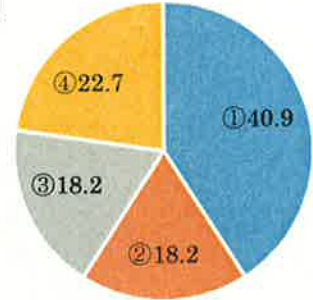
- ①だいたい週に4回以上行く
- ②週に1~3回程度行く
- ③月に1~3回程度行く
- ④年に数回程度行く
- ⑤ほとんど、または全く行かない



平日、学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

- ①2時間以上
- ②1時間以上、2時間未満
- ③30分以上、1時間未満
- ④10分以上、30分未満
- ⑤10分未満
- ⑥全くしない

### ■中学校



質問紙調査によると、6割程度の児童生徒が「読書好き」と回答しているものの、全国平均（児童72.8%、生徒67.9%）よりやや低い傾向にあります。また、学校の図書室や地域の図書館に行く頻度については、月に1~3回程度行く児童46.2%（全国平均40.7%）、生徒17.0%（全国平均19.6%）であり、大きな差異はないものの、必ずしも図書室が有効的に活用されているとは言えない状況です。

また、「ほとんど、また全く図書室に行かない」「平日に読書を全くしない」と回答する児童生徒も一定割合存在します。これらの傾向は、中学生の方がより顕著にみられます。

小・中学校では、司書教諭や図書運営員を中心に、児童生徒の読書環境の整備に努めていますが、図書室を活用した授業づくりや、家庭での読書活動につながる取組も今後一層進めていきます。

## 4、学校質問紙調査の概要

全国学力・学習状況調査では、児童生徒を対象としたもの以外に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する『学校質問紙調査』も実施されました。児童生徒に対する調査結果と併せて分析し、各学校の指導方法の工夫、改善に繋がっていきます。

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか

＜小学校＞週に複数回、定期的に行った　＜中学校＞基本的に毎日行った

「朝の読書」を小学校では週に何回か、中学校ではほぼ毎日行っています。読みたい本を自席で静かに黙読するだけですが、それが読書習慣となり、やがて一年間続けられたという自信につながります。また、集中力も高まり、落ち着いた雰囲気の中、授業に向かうことが出来ます。

授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れられましたか

＜小学校＞よく行った　＜中学校＞どちらかといえば、行った

「めあて」は、児童生徒がこの1時間の見通しをもつための仕掛けです。学習課題を解決していくための手がかりをつかむことで、「出来そう」「こうやったらどうかな」という意欲が高まり、目的意識をもって授業に参加することが出来ます。

児童生徒質問紙「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていますか」に対し、84.6%の児童、61.4%の生徒が肯定的な回答をしています。言い換えると、残りの児童生徒には十分伝わりきれていない現状とも言えます。提示の仕方や、めあてそのものの工夫を今後一層図っていきたいと思います。

授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか

＜小学校＞どちらかといえば、行った　＜中学校＞どちらかといえば、行った

「振り返り」は、授業冒頭に示しためあてに対して行うもので、児童生徒が学んだ内容を再確認したり、「出来た」「こうすれば良かった」など、達成感や次の学習への意欲につながる大切な活動です。

小中学校では、めあての提示と同様に、各教科に応じた方法で行っているところですが、児童生徒質問紙「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対しては、52.5%の児童、51.1%の生徒が肯定的な回答をしている一方、そう感じ取っていない児童生徒が約半数近くいることを真摯に受けとめ、見直しを図っていきたいと思います。

学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

＜小学校＞よく行った　＜中学校＞どちらかといえば、行った

小中学校での話し合い活動は、授業に限らず頻繁に行われています。今回出題された国語問題には、聞き手の反応に注意して話すことや、相手の話の目的や意図を捉えながら聞くこと、また自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞くことといった「話す」「聞く」双方の工夫に関する問題も多く出題されました。

学校での話し合い活動に際し、話し手と聞き手の目的意識をしっかりと指導し、今後も計画的に取り入れていきたいと思います。

学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか

〈小学校〉よく行った 〈中学校〉よく行った

学習規律の確立は、学びの基盤とも言えます。小中学校では、校内の共通理解のもと、学年段階に応じて計画的に、そして繰り返し丁寧に指導しています。

教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか

〈小学校〉どちらかといえば、行った 〈中学校〉どちらかといえば、行った

学校での学習内容が、普段の生活や児童生徒の身近な問題の中で、生きた知識として活用されることが大切です。児童生徒質問紙調査によると、地域や社会の出来事に興味がある割合が高いとは言えない状況です。小中学校では、今後も一層、身近な題材を適宜取り入れていきたいと考えます。

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

〈小学校〉どちらかといえば、行った 〈中学校〉よく行った

キャリア教育の指導に際し、小学校では「自己肯定感を高めながら、夢や希望を持って努力し、意欲をもって学び続ける児童の育成」を推進目標としています。中学校では「望ましい職業観の育成とともに、卒業後、そして将来を見据えた進路選択・進路決定が主体的に出来る生徒の育成」を目標に、3年間を系統的にきめ細かく指導を行っています。

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

〈小学校〉ほぼ毎日 〈中学校〉ほぼ毎日

学校長は、都合のよい時間をみでは、校内を巡回しています。それは、授業の時間に限らず、登下校や昼休みの時間、時には児童生徒がいない玄関や教室など、校内の様子を直接見て確認します。管理職として学校全体を把握し、児童生徒の頑張りや困り感、教職員一人ひとりの指導に注視していくことへの責任があります。

平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

〈小学校〉行った 〈中学校〉行った

全国学力・学習状況調査は、対象学年の児童生徒のためだけに実施されている調査ではなく、全ての児童生徒、全ての学年の教職員の授業工夫・改善のために実施される調査です。昨年度の結果分析にあたっては、各校および町教育委員会の分析に加え、県教育委員会の分析指導も受けながら丁寧に行いました。

その上で、課題の克服に向け、県教育委員会学力向上アドバイザーによる過去問題活用授業の実践や、外部講師を招聘した校内研修、また教職員間での模擬授業の実践などにも取り組んでいるところです。

## 5、全体的な課題

### 学力調査からみえる課題

学習した知識・技能を日常の事象・現象、  
また社会的問題に当てはめて考える力の育成

- ・既習の知識や技能を活用し、主体的に取り組めるような身近で、かつ解決の必要性を感じるような課題設定が一層必要です。
- ・予想や仮説、結果の見通しを持たせることで、探究心を伸ばすような授業づくりが一層求められます。
- ・自分の考えを整理し、他者に伝えたり、書いてまとめたりする技能を身に付ける指導の充実がより求められます。

### 学習状況調査からみえる課題

主体的に学習に向かう姿勢と生活習慣の見直し

- ・授業や家庭学習において、与えられた指示以外に、自ら課題を持ち、学習に向かう姿勢が消極的です。
- ・生活習慣の見直しや、家庭学習の習慣化に向け、家庭と連携し出来る事から一つずつ進めていく必要があります。
- ・地域や社会で起こる出来事や問題に関心が低い児童生徒が多いです。学習の題材として適宜取り入れ、そういった話題に触れる機会の拡充に努めます。
- ・自己肯定感が低めの児童生徒に対し、授業に限らず、学校行事や学級活動を上手く活用し、きめ細かな指導を行っていきます。

## 6、今後の取組・支援

### 【1】教育委員会が行う取組・支援

今回の全国学力・学習状況調査に際し、各学校では調査後一人ひとりの解答用紙をコピーし、一言一句丁寧に読み返し、自校採点を行いました。細かな分類に分け採点し、集計する作業は、かなりの時間と労力が必要でした。それでも、採点することで、一人ひとりのつまずきを把握し、解答を細かに分類することで、問題を深く研究し、学習指導要領で求められている力の理解を深め、その上で、これまでの授業を振り返り、早期から授業の工夫・改善に向け取り組んでいます。

町教育委員会では、こうした各学校の取組を支援するとともに、指導主事の派遣を通じ、授業改善や校内研修がより効果的に行われるよう指導を行います。

#### ■具体的事項

- ・少人数指導等、個に応じたきめ細かな指導が行えるよう引き続き支援します。
- ・特別な配慮を必要とする子どもへのサポート体制や、教育相談体制を一層推進します。
- ・教職員研修や研究授業の指定を通じ、教職員の資質向上ならびに授業改善を図ります。
- ・町教育委員会と小中学校の担当者が会する度会町学力向上部会等を通して、9年間を見通した教育の充実に努めます。
- ・度会町ふるさと歴史館等の学習施設の充実を図るとともに、各種イベントを通じた郷土学習に取り組めます。
- ・児童生徒の主体的な学習意欲を育むため、地域学習や体験活動など各種取組を支援します。
- ・土曜日授業がより効果的に実施されるよう、定期的な検証を行います。
- ・計画的な図書整備や専門員配置など、読書環境の整備を継続して行います。併せて、読書推進に向けた各種事業にも積極的に取り組めます。
- ・地域の方々に、学校教育活動に一層興味・関心をもってもらい、学校とともに子どもたちを育み、見守っていただくため、学校ならびに教育委員会は積極的に情報を発信していきます。

### 【2】家庭や地域へお願いしたいこと

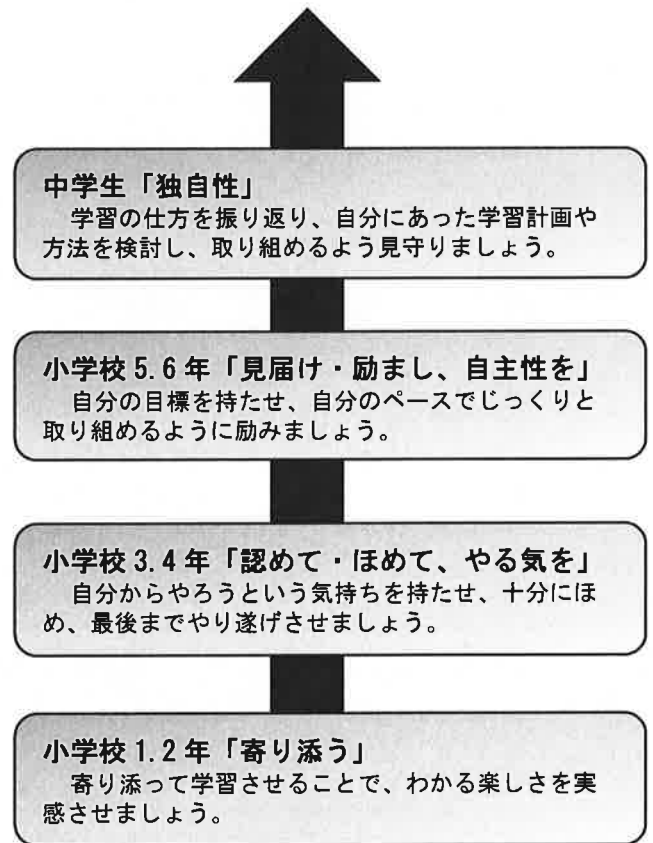
学校では、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育てています。「学ぶ力」とは、「なぜ?」「知りたい」「調べてみよう」と、問題を見つけ出し、学んだ知識を活用しながら、見通しをもって、その解決を図る力のことを言います。これは、各ご家庭や地域の皆さまの協力によって、その成果を何倍にも高めることができます。

子どもたちは、認められ励まされることで、「見守られているな」という安心感や、「頑張った」という達成感、充足感を抱き、それが自信と今後の「学ぶ力」につながります。良いところは真っ直ぐ伸ばし、課題として考えられるところは、改善に向け、私たち大人が手を携えて導いてあげることも必要です。子どもたちの豊かな成長と、自ら学ぶ力を育むため、子どもとの関わりを振り返り、まずは一歩踏み出していただけませんか。

## ■保護者の皆さまへ

- ・「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」等毎日の規則正しい生活リズムが大切です。
- ・テレビ、ゲーム、携帯電話の使用は、ご家庭でのルールをしっかりと話し合しましょう。
- ・子どもの学習に目を向け、“頑張り”を見逃さず、応援してあげてください。
- ・学校や身のまわりの出来事など、子どもと話す時間を持ち、しっかりと聴いてあげてください。
- ・地域や社会の出来事に目が向くよう、新聞やニュースをもとに、働きかけをしましょう。
- ・地域の行事やPTA行事には、子どもと一緒に参加しましょう。
- ・家族の一員として、家事への協力を呼びかけ、責任感と自立心を育てましょう。
- ・読書をとおした学びを応援してください。本を通じた共通の話題をもったり、図書室に立ち寄りたりするなど、無理なく出来ます。保護者の方も一緒に楽しみませんか。町民の皆さまが利用できる図書室として、町内には、中央公民館図書室（棚橋）、地域交流センター図書室（棚橋）、南伊勢高校度会校舎図書館（大野木）があります。

“子どもの可能性を真っ直ぐ伸ばしましょう”



## ■地域の皆さまへ

- ・子どもたちは、元気にあいさつをしていますか。学年が上がると、照れもあるのか、声も小さくなりがちですが、地域の方との触れ合いは、まず「あいさつ」です。恥ずかしがっているようなら、一声掛けてあげていただけませんか。
- ・子どもたちは、地域での遊びや行事、交流活動から、社会性を身に付けていきます。良い行いは褒め、危険なことやマナーに反することには、毅然とした対応をお願いします。
- ・少子化により兄弟姉妹や地域内の同世代と関わる機会が減っています。また、家族のスタイルも変わりつつある中で、子どもが学校や家庭以外で、他者と関わる機会が今後一層減っていくことが危惧されます。中でも、異年齢者と関わる大切な機会は、今後一層地域の中で求められることとなります。温かい見守りと声掛けをお願いします。